

令和5年4団体合同新年名刺交換会



新春の恒例・新年名刺交換会が、1月6日（金）午前10時30分から、JR 奈良駅西側のホテル日航奈良で開催された。令和3年・令和4年と、新型コロナウイルスの影響で中止だった為、開催は3年ぶりとなった。当部、及び、奈良商工会議所、奈良経済産業協会、奈良経済同友会の4団体が合同で開催しているもので、県内の政界や経済界の代表者ら約600人が参加、久しぶりの名刺交換会は熱気あふれる盛大な会合になった。

冒頭、来賓の荒井知事が「奈良県を、他地域依存型ではなく、『三方よし』（事業者、働く人、地域にとってメリット）となる条例案を提出したいと考えている」と新年の抱負を述べ、仲川奈良市長は「今年は奈良市の世界遺産登録から25周年。経済団体の皆様と力を合わせて経済分野でも大きな成果を上げられるよう頑張っていきたい」とあいさつ。国会議員の馬淵澄夫衆議院議員、小林

茂樹衆議院議員、前川清成衆議院議員のあいさつの後、主催者代表が登壇。奈良商工会議所の小山会頭、奈良経済産業協会の森島副会長、奈良経済同友会の井村代表幹事が新年の抱負を述べた。当部の菊池会長も「昨年、スポーツ界では、メジャーリーグでの大谷選手の活躍、サッカーワールドカップ日本代表の躍進という明るい話題があったが、経済界は厳しい環境が続いている。中国故事に『疾風（しっぷう）に頸草（けいそう）を知る』という言葉があるが、激しい風が吹いても生き残る草のように、我々経済界の間も学校や行政と連携して難局を乗り切って行きたい」と力強くあいさつ。最後の奈良県出身の映画監督、河瀬直美氏のあいさつの後、参加者は各自会場を回って名刺を交換、令和5年の幕を開けた。